

第8回建設産業活性化会議 議事概要

日時：平成26年8月7日（木）13：30～14：30

場所：国土交通省3号館4階特別会議室

・北村建設業課長より、「（資料）建設業の総合的な人材確保・育成対策工程表（第一弾）（案）」について説明があった。

・構成員から、以下のような発言があった。

（日本建設業連合会 渥美総合企画委員会委員長代行）

- 中間とりまとめで取り上げられた各施策について、工程表という形で各項目について役割分担とスケジュール感が明確にされたことで、官民が共通の認識で同じ目標に向かって取り組むことが可能になり、我々としても大変活動しやすくなった。
- 日建連では、これまでも担い手の確保・育成を最重要課題と位置づけ、適切な賃金水準の確保や社会保険未加入対策等の活動を実施してきたところ。今回の工程表作成を期に、更に各分野での取組を加速させて行きたい。
- 工程表に記載する日建連の取組みの中で何箇所か「中長期ビジョン」という言葉が出てくるが、これは日建連の今年度の重要事業の1つとして委員会横断的な体制で検討を行っているものであり、具体的には東京オリンピック・パラリンピック前後の10年程度の中期的なスパンとその後の本格的な人口減少を見据えた長期的スパンに分けて建設市場の変化を考察し、建設業の目指すべき姿とその実現のための課題・方策についてビジョンという形で取りまとめようというもの。
- その中で最重要の課題の1つとして検討していくのが、担い手の確保・育成というテーマであり、特に技能労働者の雇用形態の明確化、あるいは週休二日制の実現といったなかなか一朝一夕には解決の難しい問題について、このビジョンの中で方向性と進め方を定めたいと考

えている。

(全国建設業協会 伊藤前労働委員長)

- 本日の工程表に盛り込まれた目標に向けて、全建としても官民一体となった建設業の総合的な人材確保に取り組んで行く。
- 全建としても、早速、将来の地域建設産業の担い手確保・育成のための行動指針の策定に着手し、中・長期的視点に立った総合的な人材の確保・育成に向け走り出しているところ。
- 7月23日には検討ワーキンググループ会合、更に8月4日には労働委員会を開催するなど、全建47都道府県協会の総意として行動指針を年内を目途に取りまとめるべく検討を進めている。
- 行動指針策定にあたっては、職場の労働環境の改善に向け社会保険の加入促進や週休二日制の現状を把握するためのアンケート調査を実施するほか、職場見学会やインターンシップ等の開催、高校生や父兄等とのコラボレーション活動の拡大、女性の活躍促進のための「女性の活躍・応援フォーラム」の開催等を行うことにしている。

(全国中小建設業協会 豊田副会長)

- 今般の工程表については、施策が60種類と多岐に渡っており、これを一度に実行するのは非常に困難であることが予想される。
- 全中建としては、まず、会員の団体並びにその会員企業に周知徹底を図ることが肝要であると考えており、9月から年末にかけて全国のブロックで意見交換会を開催する予定。
- 会員企業は中小企業であり、地方公共団体発注工事の受注が多い。一部の地方公共団体では歩切を行っている実態があり、その根絶に向け取り組んで行きたい。また、社会保険の未加入問題その他について早急に実態調査を行い、次回の会議までにその結果を報告したい。

- 本会議で打ち出された施策の実効性を高めるためには、受注業者だけで解決できるものではなく、受発注者、専門工事業者、建設コンサルタントまで含めた四者会議、五者会議といった協議の場を設けて頂きたいと思う。

(建設産業専門団体連合会 才賀会長)

- 本日の工程表について、建専連として3項目提案したい。
- まず1つは登録基幹技能者の活用・評価について、検討を開始するには遅いくらいであり、現場常駐に向け強固に取り組んで頂きたいと思っている。
- 標準見積書の活用について、地方ではなかなか理解が得られていない。特に民間工事でそうした問題が多いことに加え、建専連傘下の専門工事業でも業種によっては取組が遅れているところもあるので、取組を強化していきたい。
- 教育訓練の充実・強化については、富士教育訓練センターと地域の教育訓練機関との連帯を強化するとともに、全国で企業単位、団体単位で体験学習の受入れ等様々な活動をしているが、更にその活動、普及に努めてまいりたい。

(全国建設産業団体連合会 竹澤専務理事)

- 建産連は、建設業全体の取組課題として、工事毎にいかに利益を確保するかということ、もう一つは担い手を確保して育てていくことを二大テーマとして、諸事業を実施していきたい。
- 本年6月には担い手3法の定着、建設産業活性化会議中間とりまとめの理解と実現、元下関係の円滑化を柱に置いた全国建産連ビジョンを策定し、現在、その周知の徹底を図っているところ。

- 8月の盆明けから、全国建産連に設置している地方建設生産システム合理化推進委員会等において、工事毎にどう利益を確保するかという観点の品確法対応作業部会、担い手確保に資する労働関係作業部会をそれぞれ立ち上げ、活発な議論を進めて行きたいと考えている。
- また、府県建産連においては地方システム協議会を持っており、この組織及び機能の活用や、モデル的に数カ所でブロック協議会を開催し、水平展開を図って行きたいと考えている。
- 建産連としては、建設産業に関わる全ての団体から構成されているという特色を更に活かして行きたいと思っている。

(建設業振興基金 内田理事長)

- 地域連携型の教育訓練ネットワークの推進について、コンソーシアム形式で取り組んで行く。
- 建設業振興基金においてコンソーシアムの事務局の体制を整備し、人材確保・育成について経験や実績、知見を持っており、それを使って具体的な行動に取り組む意思を持っている団体や組織機関に呼びかけて、10月には発足させたい。
- コンソーシアムの最初の仕事は、まずは都道府県単位で総合工事業、専門工事業が連携した教育訓練システムの構築支援。二つ目は教材やカリキュラムを開発して提供すること。三つ目は全国に作った教育訓練のネットワークを富士教育訓練センターにつなげていくこと。四つ目は富士教育訓練センターの機能の強化。
- 事業の推進にあたっては、各団体をお願いして造成している担い手育成基盤整備基金を活用し、富士教育訓練センターのハードウェアの整備、ソフトウェアの充実強化も行っていく。

(全国工業高等学校長協会 國馬理事)

- 工業高校と連携し試験地の増加を検討頂くということに感謝申し上げます。
- ただ、工程表にある富士教育訓練センターの充実という項目について、この中に教員の人材育成の観点が少し欠けている気がする。実情を申し上げますと、工業高校の教員は大学卒業後すぐに教育現場に来る者が多く、実践経験が乏しい。
- 工業という教員免許は、建設系であっても、機械でも電気でも教えなければならないような実情があり、専門性が薄れている。土木建築を教えている教員の中には化学系の教員もいる。是非とも教員の養成を優先して頂くことが、魅力ある建設業を生徒たちにアピールすることになると考えている。
- 富士教育訓練センターの活用にぜひとも教員養成を入れて頂ければありがたいと思うので、よろしく願いしたい。

(北海道大学 高野准教授)

- 今も工業高校校長会から話があったが、人材を確保するという意味では、建設系の高校・高専・大学に行っている学生・生徒にいかに建設業に就職してもらうか、ということが一番大きな課題。
- 継続的に建設業への入職率を観測し、それを1つの指標として考えていくことも有効である。工業高校、高専の学生・生徒に建設業へ就職してもらうことが肝要であるが、なぜ多くの学生・生徒が建設業以外の産業に就職してしまうのかについて分析が必要。
- そのためには大学、教育機関を色々な連携の中に加えて頂くことが重要だと思う。

(東洋大学 大森教授)

- 実際の行動に向け、今回の工程表のようにタイムテーブルで示すと

いうことは非常に画期的で素晴らしいと思う。

- 実行するとともに、行動後のフォローアップも大事である。建設産業をより良い業界にするために、是非、官民ともに一体となってフォローアップに取り組んで頂きたい。
- 非常に期待している。

(土井政務官発言)

- 中間とりまとめから約1ヶ月という短い期間で各団体の皆様からは貴重なご意見・ご提案を頂き、改めてお礼を申し上げたい。
- 私は経済対策としての公共投資とはどういうものか、またそのことが日本の経済、地域の経済に現す効果について国土交通省としてしっかりと国民の皆様方に示していくということが大切であり、必要だと思っている。それにより建設産業の活性化、今ご意見を頂いたような色々な課題・政策を確実に団体の皆様方に取り組んで頂けると思っている。発注者と言われる国又は地方公共団体に対して、そのような取組の意義というものをしっかりと伝えていき、また建設産業の活性化につながる発注方式というものをしっかりと統一的な形で行うことが大切である。
- もう1つは公共投資予算の安定的な確保、それに基づき業界の皆様方に将来というものの展望をしっかりと示せるということも活性化につながると考えている。そのためには、何よりも国土交通省としての役割を確実に達成していく、それにより団体の皆様方と官民挙げて色々な課題にしっかりと取り組んで行くことが必要であり、そのことが今回の工程表の確実な実行に繋がって行くと思っている。
- これまで以上のご支援又はお知恵を賜り、国土交通省として建設業界と共に頑張っていきたい。

(高木副大臣発言)

- 今回で8回目の会議になるが、毎回本当に貴重なご意見を頂きお世話になった。本当に有難うございます。
- 土井政務官の話のとおり、前回の中間とりまとめから、今日から行動開始ということで、早々に工程表ができたことは有り難いと思っている。
- 今日示した工程表の表紙の枠囲みの記述が全てを表している。いつも申し上げているとおり、行政や団体、教育機関の皆様も含めしっかりと全体でやっていくこと、その中でも何をいつまでに誰がやるかということ、その後しっかりとフォローアップしていくことが大事である。
- 本日は、中間とりまとめから一歩進んで工程表ができたということで、一歩前進した。先ほどの大森先生の発言のとおり、しっかりとそれぞれの立場で力を合わせながら進めて行く、実行していく、そしてそれをしっかりとフォローアップしていくということがこれからも大事だと思う。引き続きこうした会議をやっていきたいと思っている。
- 皆様方の更なるご理解、ご協力をお願いしたい。

以 上